神石高原アートプロジェクト2013 仙養ヶ原石彫シンポジウム

「石舞台と風の宴」

2011年から今年が3回目となる「仙養ヶ原シンポジウム」は、今年の夏も広島近郊を中心に活動する彫刻家、学生１５名が仙養ヶ原ふれあいの里に滞在して、石の彫刻や立体作品の公開制作と作品展示を実施。石の素材は主に、この地で産出する玄武岩を用いて、開放的な野外空間で存在を発揮する表現を目指した。また不変不動の石の彫刻に対比する形で「風の宴」をテーマとした、ゆらぎとうつろいを持った自由な素材で立体作品を制作し、展示。同時に2012年8月から制作を開始した「石舞台」は大規模な造成を終え、今年度の目標であった石材基礎部は完成。これを記念し、来たる10月20日（日）、天に近い標高700ｍの山頂にて神代神楽八ヶ社による神楽が彫刻家の手によって造られた開放的な「石舞台」で舞うこととなる。

石舞台プロジェクト

風 球

四角いアメンボ

カゼノウツワ

ラブ・プレーン

恋人の聖地、とよまつ紙ヒコーキタワーから風に吹かれて山を越え、仙養ヶ原にやってきたラブプレーン。ラブプレーンは空を飛びまわり神石高原に恋の風を吹かせる。

石彫作品

仙養ヶ原シンポジウム２年目の２０１２年「彫刻的な手法を用いて仙養ヶ原のために何かできないか」と思案しました。その結果、巨大な隕石が衝突したかのようなクレーターの中に、神石高原町で産出される玄武岩を使った「石舞台」を造ることを思い立ちました。異空間からの強いエネルギーの中にある神秘的な場を創造することです。そしてこの度２０１３年９月に基壇部が完成しました。神石高原町で今も盛んに行われている神楽を始め、地域の皆さんの未来と地域創造のための一助となる「舞台」になって欲しいと願っています。

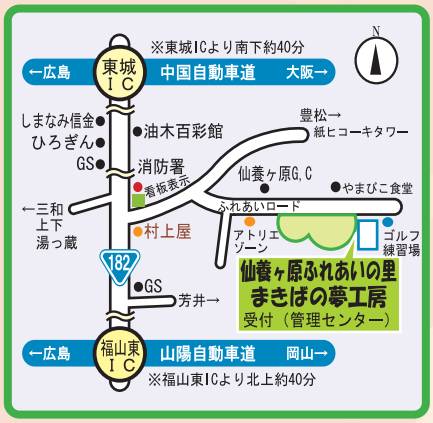
彫刻家 広島市立大学芸術学部教授 前川 義春

神代神楽八ヶ社とは？

江戸時代後期からの神事色の強い神楽として存在していた八ヶ社は、八つの神社（豊松４社、油木３社、岡山東三原１社）の社家によって組織されており、豊松の鶴亀八幡神社の宮司であった翁 長門守 豊章氏により統率され、明治中期に神職が神楽を舞うことを禁止されて以来神楽太夫が舞うようになりました。これが八ヶ社の始まりです。
1804年頃から自然災害や疫病が起きないようにお祭りをおこなう中で、神話劇が演劇色を強めたり、神能にも改良を加えてさまざまな新しい舞を取り入れ、発展して今の神楽ができました。

また八ヶ社は、神役を昭和34年に、神能を平成2年に広島県無形民俗文化財の指定を受けています。

アクセスマップ



福山方面より
【所要時間：約50分】
東城方面より
【所要時間：約30分】
岡山方面より
【所要時間：約1時間30分】
広島方面より
【所要時間：約2時間】

◎仙養ヶ原ふれあいの里への行き方◎
国道182号 ⇒ 県道106号（ふれあいロードの看板方向へ）
⇒ 一本目を右折（当施設の看板が目印）
⇒ ゴルフ場を抜けて右折
「まきばの夢工房」までお越し下さい

ご予約
お問い合わせ

仙養ヶ原 ふれあいの里

仙養ヶ原ふれあいの里
〒720-1702 広島県神石郡神石高原町上豊松72-8
☎(0847)82-2823 FAX(0847)82-2236
http://senyo-gahara.com information@senyo-gahara.com